資料3

## 議題３　自転車に対する啓発活動について（安城市提出）

| 市名 | 回答 | | |
|---|---|---|---|
| | （１）啓発内容 | （２）効果的な啓発 | （３）その他、今後の方向性や課題 |
| 名古屋市 | 名古屋市に全戸配布される広報紙に青切符制度を始め自転車の交通ルールをわかりやすく掲載したり、市公式ウェブサイトやポスターの掲示による啓発を行った。<br>市立大学学生と連携して中高大生や若者向けに青切符制度に関する動画を作成した。<br>自転車の交通ルールを啓発するガイドブックを（小学生用、中学生用、一般用をそれぞれ）青切符制度の内容に改訂した。 | ・広報紙での特集や、市管理の駐輪場での青切符制度についてのポスターを掲示した。<br>・学生と連携して作成した動画を繁華街のデジタルサイネージにて放映した。<br>・市主催のイベント（交通安全フェスティバル）にて愛知県警と連携し、青切符制度についてのトークショーを行った。<br>・青切符制度の内容に改訂した自転車ガイドブック（一般用）を交通安全教室にて配布し、小学生用の自転車ガイドブックは、新小学1年生の保護者説明会で全員に、中学生用の自転車ガイドブックは、新中学1年生全員に配布した。 | 一般市民の方の希望を受けて行う交通安全講話を行っているが、回数の拡充や体制の確保が必要。 |
| 豊橋市 | 自転車に対する啓発活動は、各世代に向けた交通安全教室を実施するとともに、交通安全運動実施時等における啓発チラシの配布などを行っています。また、駅駐輪場へのポスター掲示や広報紙を通じた啓発を実施し、幅広い世代に対する周知を行っています。 | 広報紙については、ヘルメットへの補助金や青切符制度など関心の高い記事を掲載すると問合せが増えるため、特に高齢者層には効果的だと考えています。また、交通安全運動期間中に、高校に出向いて、生徒とともに登校してくる生徒や通勤者に直接訴えかける街頭啓発も効果的だと考えています。 | 自転車の乗車ルールが浸透していないと感じるため、できるだけ多くの方に交通安全教室を受講してもらえるよう、働きかけていきたいと考えています。 |
| 岡崎市 | ・市政だより掲載<br>・ホームページ掲載<br>・啓発動画作成（ケーブルテレビにて放映、市YouTubeに掲載）<br>・県警作成チラシのデータ配布依頼（公立高校校長会への出席、私立高校へのメール配信）<br>・警察署と連携した交通安全教室開催（高校・大学等）<br>・自転車の安全利用に関するアンケート実施（全高校１年生対象）<br>・青切符制度に特化した内容の出前講座開催（一般） | 令和８年４月から青切符制度に特化した出前講座メニューを立ち上げたところ、申し込みが非常に多く、関心の高さがうかがえる。内容は現在、県警派遣の警察官に意見を仰ぎ調整を重ねながら作成中。<br>（効果については現時点では測りかねる。） | 効果測定は困難ではあるが、引き続き特に自転車利用や事故の多い高校生や高齢者をターゲットとした効果的な啓発を進める必要がある。令和８年度は、新たな取り組みとして、よりインパクトのある動画製作、県と連携した高校生への自転車の安全利用に係る啓発活動を実施予定。 |
| 一宮市 | 自治会やコミュニティでの講話、市ウェブサイトやデジタルサイネージ等での啓発動画等の発信、市内全高校へ制度を周知するちらしを配布したほか、学校の協力の下、自転車の交通ルールについて啓発授業を実施した。 | 比較的小規模な集会（20～30人程度）での講話（１時間程度）が、自転車の交通ルール等を伝えやすく、質問等も受けやすいため、聴講者からは好評いただいている。 | 高校生が検挙されている事例も多いため、警察と連携した啓発を継続していく。 |
| 瀬戸市 | 市内の高校にて、警察が交通安全教室の講話を行うとともに、市がヘルメット着用の必要性と補助金制度の説明をした。 | 市内の高校にて、警察が交通安全教室の講話を行うとともに、市がヘルメット着用の必要性と補助金制度の説明をした。学校によっては、実際に体育館で生徒に自転車に乗ってもらう機会を設けた。 | 今後も引き続き啓発活動に努めたい。 |
| 半田市 | 自転車の青切符導入や自転車用ヘルメット購入費用の補助について市報で広報した。また、知多自動車学校と連携し高校生が多く利用する駅前でヘルメット着用促進キャンペーンを実施した。 | 自転車用ヘルメット購入費用補助金の申請者のうち約56％が市報を見て申請をしており、市報による広報が効果的だった。 | 引き続き自転車用ヘルメット購入費用の補助について周知を行う。 |
| 春日井市 | 小中学校、高等学校や老人クラブ等で、各年代に即した交通安全教室や交通安全講話を実施しています。 | 普段から通学等で自転車を利用する機会の多い高校生に対して、自転車の交通ルールに関する質問募集を行い、寄せられた質問を参考に高校生が特に必要としている情報を考え、反映させた、高校生専用のオリジナルガイドブックの作成を生徒会の生徒と協力し行いました。 | 自転車乗用中の事故時の頭部損傷を軽減させるため、自転車用ヘルメットの着用についてより一層の周知啓発に努めます。<br>特に自転車用ヘルメットの着用率が低い傾向にある高校生に対する着用率を向上させる効果的な啓発の実施が課題であると感じています。 |
| 豊川市 | 自転車乗車用ヘルメット補助金を活用し、ヘルメットの着用を推進するため、市内の自転車販売店、小学校、高校へチラシの配布による啓発。<br>市内の小学校（３年生対象）での自転車教室の実施 | 特段ありません。 | 自転車通学の高校生のヘルメット着用率は、かなり低いと思われるので、効果的な啓発方法が課題と考えています。 |
| 津島市 | ヘルメット着用促進事業費補助金申請の際に窓口にて青切符制度に関するチラシを渡している。 | 特になし | 特になし |

## 議題３　自転車に対する啓発活動について（安城市提出）

| 市名 | 回答 | | |
|---|---|---|---|
| | （１）啓発内容 | （２）効果的な啓発 | （３）その他、今後の方向性や課題 |
| 碧　南　市 | ・パンフレットやポスターの掲示<br>・チラシの作成<br>・市内各校小学３年生を対象に市指導員による自転車交通教室を開催（４月）<br>・市内各校中学３年生にチラシの配布<br>・市内各高校全学年の生徒にチラシの配布と駐輪場にのぼり旗とパネルの設置<br>・市内各公共施設の駐輪場付近にのぼり旗の設置<br>・高齢者に対して、交通安全教室を実施<br>・普通自転車歩道通行可の標識がある歩道内の歩行者、自転車の路面標示 | ・碧南警察署と一緒に交通安全教室を開催し、自転車のルールやマナーなどを伝え、市民からの質問に答える機会を設けている。<br>・高校へのぼり旗、パネルを設置してもらったところ、高校側で朝のあいさつ運動時にのぼり旗を使い積極的に周知してくれており、その活動を高校のインスタグラムにあげてくれている。 | 市内には、国道、県道、市道とそれぞれ道路管理者も違い、また、それぞれの関係機関において対策に対する手続き関係も様々であり、すべての道路を安全対策の対象とすることは非常に難しい。関係機関とも相談しながら、通行量や危険度などを考慮し、対策が必要な道路へ優先的に進めていきたい。 |
| 刈　谷　市 | （中高生対象）<br>市内中学・高校の先生が出席される会議で、青切符啓発のチラシを配布し、制度の周知をお願いしました。<br>また、本市の事業ではございませんが、R7.10月に、刈谷高等学校にてＪＡあいち主催で、スタントマンが事故発生の瞬間を実演するなどしながら、自転車の利用者が守るべきルールやマナーを学ぶ「自転車交通安全教室」を開催していただきました。また、令和８年中には市内企業、警察と本市が連携し、スタントマンの実演を交えた、自転車に係る交通安全教室を実施する予定です。<br>（高齢者対象）<br>　毎年シルバー人材センターの会員を対象に、自転車教室を１回開催しています。今年度も開催予定であり、青切符に関する講義を行う予定です。<br>　また、老人クラブや防犯パトロール隊などの団体から要望があれば、交通安全に関する出前講座を開催しています。出前講座では、自転車の安全利用五則と青切符について掲載されたクリアファイル（市）と青切符のルールに関する冊子（警察）を配布しています。 | 出前講座では、自転車の基本的なルールをはじめ、青切符の制度の説明や質問時間設けており、アンケートでは「ためになった」という回答を多くいただいています。 | 警察や民間企業と連携し、交通安全教室等の実施を検討します。 |
| 豊　田　市 | ・ヘルメット着用促進<br>・青切符制度<br>・自転車保険の加入<br>・自転車安全利用五則 | ・ヘルメット補助金の交付決定通知にチラシを同封<br>・市内高校の入学説明会におけるヘルメット補助金の周知<br>・市内高校の入学式におけるヘルメットの重要性周知<br>・交通安全学習センターによる中学・高校・一般向け出張講習<br>・交通安全市民運動期間中の、市内高校における自転車通学者に対する直接的な啓発<br>・推進強化地区を定め、チラシ回覧・地域イベント時に啓発<br>・推進強化地区内の高校において、スケアードストレート教室（スタントマンによる自転車の安全利用啓発）を実施 | ・ヘルメット着用率は、高校によって差が大きいため、底上げが課題<br>・市内企業とも連携して高校生のヘルメット着用率向上に向けて取り組んでいく予定 |
| 安　城　市 | | | |
| 西　尾　市 | 市のホームページなどで広報を行っています。 | 青色切符制度が４月よりスタートしましたが、交通ルールが変更になったのではなく、取締の方法が変更になっていることから、青色切符制度の説明や講習などは、管轄の警察署にお願いし、同行要請があれば、同行して啓発活動を行っています。 | テレビ報道は、詳細な説明もしてないことから、青切符の対象となる違反行為でなくても、青切符対象なると思っている市民が多いことへの対処方法。 |
| 蒲　郡　市 | 本年度は例年と比較して自転車に関する出前講座の申し込みが多く、各地で講話を行っている。<br>青切符制度が始まった4月は交通安全運動期間中を中心に、青切符制度を周知するキャンペーンを行った。<br>キャンペーンでは青切符制度を啓発する内容のクリアファイルを配布し、自転車を利用する方への周知を行った。<br>併せて、ヘルメット補助金についても周知を行った。 | 青切符制度のクリアファイルは受け取ってもらいやすく、周知ができていると感じている。<br>本市ではヘルメット補助金の申請をインターネットでも行えるようにしているため、平日の来庁時間に市役所になかなか来られない市民の皆様にも補助金を活用いただけるよう取り組んでいる。補助金申請はインターネット申請が窓口申請の2倍以上となっており、ヘルメットの積極的な購入につながっていると受け止めている。 | 引き続き警察署と連携してキャンペーン等、周知を図っていく。 |
| 犬　山　市 | ・制度開始前月の３月に、市内の商業施設・高校・駅において啓発活動を実施（チラシ・啓発品の配布）<br>・広報に記事を掲載 | 高校での啓発活動は、高校の駐輪場で実施したため、自転車利用者に確実に啓発することができた。（商業施設や駅で不特定多数の方が対象の場合、そもそも自転車に乗らない人も多い。） | 引き続き、各季キャンペーン期間中の活動等で啓発を図る。 |

## 議題３　自転車に対する啓発活動について（安城市提出）

| 市名 | 回答 | | |
|---|---|---|---|
| | （１）啓発内容 | （２）効果的な啓発 | （３）その他、今後の方向性や課題 |
| 常　滑　市 | ・通勤通学時間である早朝に駅駐輪場周辺で警察署と協調して啓発活動を実施。<br>・市の広報にてヘルメット着用の呼びかけおよびヘルメット補助事業の周知。<br>・市の広報およびホームページで自転車の青切符制度の周知。<br>・市内老人クラブおよび市内中学3年生のクラスに対し、自転車青切符制度に関するリーフレットを送付し掲出を依頼。 | ヘルメット購入費に対する補助金事業。 | 常滑警察署・中部空港警察署及び防犯団体等と連携し、交通安全啓発活動の中で自転車の交通安全、ヘルメット着用についても啓発していく。 |
| 江　南　市 | 小中学生や高齢者に対する交通安全教室の実施、青切符制度について市ホームページや広報誌への掲載及び窓口でのチラシ配布などによる啓発活動の実施。 | | 江南市でも同様に自転車のマナー違反やヘルメット着用について市民の方から相談を受けることも多いため、他市の活動で効果的な啓発方法があれば参考にし実施していきたい。 |
| 小　牧　市 | 広報「こまき」、市ホームページ、市公式SNS、庁舎内デジタルサイネージでの周知、また窓口で随時チラシの配布も行いました。交通安全教室の中で周知も行っています。 | ルールの詳細や市民の方が判断に迷うことなどについて詳しく伝えるには、交通安全教室での講話による周知が最も効果的と思われます。しかし、交通安全教室に来る層だけでは周知が限定的になることから、多くの年齢層に広く周知するには、広報「こまき」、市公式SNS、デジタルサイネージ等の手法が効果的と考え実施しています。ただし、どの程度周知の効果が出ているかというと、数値には現れ難いことから分析が難しいところです。 | 今後も周知を継続します。課題としては、市民が最も知りたいであろう「歩道を通行したら直ちに『通行区分違反』が適用されるのではないか」という疑問・心配の解消の難しさがあります。講話の中で話すのであれば、「ご自身が車道通行を危険と感じる場合には、歩行者優先及び車道寄りを徐行するルールを守っていただければ問題ありません。自転車専用通行帯の整備が進んでいない現状は、警察も理解しています。」という実態に即した伝え方が可能ですが、広報やその他媒体で文章等により周知する際に難しさを感じます。 |
| 稲　沢　市 | チラシ、リーフレットの配付 | 特になし | 特になし |
| 新　城　市 | 青切符制度の施行に際しては、広報紙やケーブルテレビ放送を利用した広報を行った。<br>自転車を含む交通安全に関する記事を広報紙に定期に掲載していく。 | ― | 現行の広報活動を継続実施していく。 |
| 東　海　市 | ・四季の交通安全運動期間中に「自転車・特定小型原動機付自転車等の安全利用及びヘルメット着用推進作戦」を実施。<br>・青切符導入に伴い、市内高校を対象に「自転車のヘルメット着用及び自転車安全利用キャンペーン」を実施。<br>・令和８年度には東海警察署と連携し、１日警察署長イベントとして市内高校で自転車教室を実施。<br>・県が実施する自転車シュミレータを利用し、自転車の乗り方教室を実施。<br>・市の行政番組で自転車の青色切符や安全な利用方法について紹介。特に、市民からクレーム・質問のある場所についての正しい自転車の走行について説明した（６/１５～６/３０放送） | 令和８年度には東海警察署と連携し、１日警察署長イベントとして市内高校で自転車教室を実施。<br>県が実施する自転車シュミレータを利用し、自転車の乗り方教室を実施。 | 高校生だけではなく、様々な対象者への自転車啓発が必要<br>・高齢者向けの自転車シュミレータの自転車の乗り方教室の実施を検討。<br>・市内留学生に向けた自転車の青色切符に関する講座を大学と連携して実施することを検討。 |
| 大　府　市 | ・中学生にはアプリを利用し保護者へチラシを配布。<br>・高校生には市内高校すべてに全校生徒分のチラシを用意し、学校にて配布を依頼。<br>・大学には合同啓発の際に、配布物にチラシを同封して声掛けをしながら配布。<br>・高齢者へは老人会やシルバー人材センターと連携して講話を実施。 | 自転車の交通違反に対する青切符制度の周知については、市内学校の全生徒へのチラシ配布や、警察官を講師とした交通安全講話を実施することで、制度の理解促進や交通ルール遵守への意識向上につながった。 | 学生を中心に啓発を実施する予定。また駅前で自転車利用者へ引き続き呼びかけを実施する。 |
| 知　多　市 | ホームページや広報誌にて青切符制度に関する内容を掲載しています。<br>警察が小学校から依頼を受けた自転車教室への協力も行っています。<br>また、７歳以上１８歳以下の児童生徒、又は６５歳以上の高齢者に対して自転車乗車用ヘルメットの購入費の補助を行っています。 | 自転車乗車用ヘルメットの補助金に関して、過去３年で７５０件以上の申請があり、ヘルメット着用に対する意識の高揚に繋がっていると考えています。 | 引き続き、自転車の運転に対する啓発及び補助金制度を行っていきたいと考えています。<br>また、本市も同様に高校生の自転車マナー違反やヘルメット着用については課題と感じているため、効果的な啓発が必要だと感じています。 |
| 知　立　市 | 安城市と同様の内容 | 市内高校の下校時間に合わせ、自転車のルール遵守及び自転車盗難防止について呼び掛けを行い、啓発チラシを配布 | 中学生の自転車マナーに関する市民意見もあることから、中学生を対象とした交通安全講話を実施し、幅広い年代における交通安全意識の向上を図る。 |

## 議題３　自転車に対する啓発活動について（安城市提出）

| 市名 | 回答 | | |
|---|---|---|---|
| | （１）啓発内容 | （２）効果的な啓発 | （３）その他、今後の方向性や課題 |
| 尾張旭市 | ・市内の小学校、中学校でヘルメットの正しい着用方法や自転車の乗り方を教える交通安全教室を実施<br>・市内高校へ自転車通学する生徒に対し、正しい自転車の乗り方を周知するチラシや啓発品を配布<br>・交通安全運動期間中に、市役所ロビーにて自転車の乗り方やヘルメットの展示を実施 | 詳細な効果検証までは出来ていないので、どこまでの効果かは不明 | 学生から高齢者まで様々な世代の方に効果的な周知方法を検討していたい。 |
| 高浜市 | ホームページにて「自転車運転の交通ルールについて」の案内および４月１日から施行された自転車の交通反則通告制度の周知を図っています。また、市役所へ来庁者やヘルメット補助の申請者に対して自転車の交通反則通告制度のチラシの配布、交通安全協議会等関係団体への周知をしています。<br>他には、名鉄の自転車駐輪場において警察署と協力し利用者へ施錠の呼びかけを周知しております。 | 自転車の交通反則通告制度のチラシ配布等により自転車の交通マナーが以前よりも向上してきたと思います。また、市内駅周辺の自転車駐輪場において、施設利用者へ声掛けによる啓発により自転車の施錠台数は向上しています。 | 現在、中高生に対する自転車の啓発活動は行っていません。そのため、この年代を対象とした啓発活動が課題であると考えます。 |
| 岩倉市 | 交通安全教室<br>市民・団体に向けての講座<br>江南警察と連携し、啓発動画の作成 | 江南警察と連携し、啓発動画の作成<br>岩倉市の公式YouTube等に掲載し、多くの市民への周知に努めている。 | 学生（中学生、高校生）に向けた周知及び啓発活動 |
| 豊明市 | 市広報・市ホームページでのPRおよび、街頭での啓発活動を行っている。 | | 学生など若年層への啓発をより一層積極的に進める必要がある。 |
| 日進市 | ・ヘルメット購入費補助※愛知県協調事業<br>・上記の決定通知の際に、啓発チラシを同封<br>・市ホームページでの周知 | | ・高校生・大学生向けの啓発キャンペーンを検討中 |
| 田原市 | 交通安全教室においてチラシ等により啓発を行っている。 | 交通安全教室等での啓発 | 高校生のヘルメット着用者が少なく、課題となっている。 |
| 愛西市 | 市独自の啓発活動は行っていない。 | — | 啓発にあたっては、警察と連携して行うことも選択肢の一つと考えている。 |
| 清須市 | ・清須市交通安全協会と連携し、まつり開催時に青切符制度の施行についてチラシ配布等による周知活動<br>・西枇杷島警察署及び清須市交通安全協会と市内小学3年生を対象とした交通安全教室の実施 | 特になし | 引き続き西枇杷島警察署及び清須市交通安全協会と連携し啓発活動を実施していく。 |
| 北名古屋市 | ・自転車反則通告制度についてのリーフレット配布<br>・出前講座の開催<br>・小学３年生に対する自転車教室<br>・中学生に対する交通安全教室<br>・市内中学校３年生全員へのリーフレット配布<br>・西枇杷島警察署と連携した市内高等学校への啓発（仕掛学） | 出前講座<br>市へ講座の申込みがあった団体へ、西枇杷島警察署員を講師として招き、講話を行う。<br>高校生への啓発には当市も苦慮しているところであるため他市を参考にしたい。 | 幅広い市民への効果的な情報伝達、ターゲットに合わせた周知の方法（SNS等デジタル媒体の利用） |
| 弥富市 | 市内義務教育学校に、愛知県作成の自転車ルールブックを配付しました。<br>自転車の交通違反に青切符が導入される４月１日直前の４日間、蟹江警察署、市職員、教師、高校生が、登校中の高校生に青切符導入とヘルメット着用の啓発を実施しました。 | 令和８年３月１０日に、蟹江警察署と連携し、登校中の高校生に、青切符導入とヘルメット着用の啓発を実施しました。 | 交通安全週間を中心に啓発を継続します。 |
| みよし市 | ・市内園児、小学生、中学生、高齢者を対象とした交通安全教室の実施。<br>・市内園児、小学生、中学生、高校生に交通安全啓発冊子の配布。<br>・各季交通安全運動期間中の店頭啓発活動の実施<br>・市ホームページへの記事掲載<br>・広報みよしへの特集記事掲載（青切符制度周知） | ・中学生の交通安全教室については自転車に特化した内容となっており、自転車安全運転利用五則を中心に、走行ルールや事故を起こした場合の対応、自転車保険や青切符制度などについて周知している。 | 青切符制度について、中学生や高校生に対する周知が課題。 |
| あま市 | ・県民運動に合わせた啓発チラシの配布、民生委員の高齢者訪問に合わせたチラシの配布<br>・市ホームページや公式インスタグラムによる情報発信<br>・出前講座による市民団体等への講義形式の啓発 | 特になし | ・SNS等での情報発信の継続<br>・啓発用動画（DVD）を購入し、庁舎内モニターを活用した啓発動画の放映<br>・市民団体等への啓発用動画（DVD）の貸出 |

## 議題３　自転車に対する啓発活動について（安城市提出）

| 市名 | 回答 | | |
|---|---|---|---|
| | （１）啓発内容 | （２）効果的な啓発 | （３）その他、今後の方向性や課題 |
| 長 久 手 市 | 市民向けの自転車交通安全講習会の実施や、シニアクラブからの要望による自転車交通安全講習会を実施しました。<br>市内の高校（２校）において、自転車通学生徒に直接チラシ配布等を行った。 | 市民向けの自転車交通安全講習会について、全６回実施し、１０代から９０代まで延べ１８０人を超える参加があり、効果的な啓発となりました。 | 市民等対象の行動変容を促す啓発等の検討を行い、効果的なものとなるように取り組みたいと考えている。 |